

平成29年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等
【北海道地区】

研究大会開催日：平成29年9月8日（金）9日（土） 稚内市

大会主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く日本人の育成を
目指す小学校教育の推進

大会副主題 ふるさとの地から世界を見つめ 新しい社会の形成に向けて
挑戦する子どもを育てる学校経営の推進

成
果

- 全道各地より570名の参加を得て、「北海道の地域性を活かした新たな可能性の開発と経営ビジョンの構築」「機能性のある組織づくり」の観点から、新たな知を拓き人間性豊かな社会を築いていく子どもを育てる学校経営の推進について究明すべく、熱心な協議が行われた。
- 分科会を「学校づくりのビジョンを語り合う場」「交流の成果を持ち帰ることのできる場」として位置付け、参画型の分科会運営を実行して5年目となる。今回も、アナライズカードや参会者持参資料・グループ編制や名札の工夫、実物投影機を使用しての視覚化の工夫等によって、参会者一人一人に参画意識の高まりが見られた。

課
題

- 「参画型」の分科会が定着してきており、アナライズカード、資料持参、グループ討議内容の視覚化によって参会者の参画意識を高める工夫も見られた。今後は、提言への質疑、提言とグループ討議を関連付ける具体的な手立て等の工夫をしていきたい。
- 分科会の協議を通して明らかになったことや課題となる点などを整理し、次年度の全連小北海道大会（函館）へそれらを引き継ぎながら、継続して深めていくようにしていきたい。

運
営
上
の
工
夫

- 分科会の充実のために、事前に3回の分科会運営者研修会を開催して発表内容や討議の柱等について検討するとともに、電子メール等によって、分科会運営者・研究発表者が要項原稿や当日の進行について共通理解を図った。
- グループ討議に分科会運営役員（記録者、運営責任者、趣旨説明者等）が参加することによって、分科会参加者との一体感が生まれ、分科会の充実の一助となった。
- 分科会の全体協議においては、グループごとにキーワードを出し合い、それらをボードに並べて比較・吟味・検討する分科会が多く見られた。更に、各グループのまとめをフリップに記し、掲示したことで話し合いの見える化につながった。
- 北海道小学校長会のホームページに各分科会の研究課題、研究発表の概要、当日持参する資料などについて掲載することによって、事前に必要な情報を提供するとともに参会者の課題意識や参加意欲を高めた。持参資料については、グループ討議に位置付けて活用を図った。

そ
の
他

特になし

平成29年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等
【東北地区】

研究大会開催日：平成29年7月6日（木）7日（金） 山形市

大会主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を
目指す小学校教育の推進

大会副主題 夢と希望をもち 共に未来を拓く いのち輝く子どもを育てる
学校経営

成果

- ◎記念講演と分科会協議を通して、東北に根ざす学校経営を学び合い、共に未来を拓く学校づくりについて考える有意義な研修の時間となった。
- 慶應義塾大学先端生命科学研究所所長の富田 勝（とみた まさる）氏の講演では、探究的な学習の必要性を再認識するとともに、地方にこそ未来を開く大きな可能性があることを、実感する機会となった。
- 分科会では、研究課題に沿ったわかりやすい提案をもとに少人数のグループで熱心な協議が行われた。地域や学校規模の違いを超えて互いの思いに触れることで、校長としての自覚と責任を再確認する場となった。

課題

- 全体会場の収容人数の関係で、開催県校長は建物内の別会場でモニター画面を通じた参加となってしまった。やむをえない事情とはいえ、大会の臨場感や一体感への影響を懸念する声があった。分科会場も含めて、会場を確保することが各県の課題となっている。
- 効率的な運営を心がけたものの、主管地区の負担を心配する声が多く寄せられた。さらなる業務軽減を工夫していきたい。

運営上の工夫

- ◎前年度の岩手大会の運営資料と課題を引き継ぎながら、「コンパクト」で「おもてなしの心」が伝わる大会運営を心がけた。主管地区の校長会や理事会、研修委員会に準備会を併せて行い、会議の縮小を図った。
- 東北各県からの参加を考慮して、山形駅周辺にすべての会場を設定した。宿泊先も含めて、移動の負担を軽減することができた。
- HPを活用して必要な情報を随時発信し、参会者と共有することができた。大会や分科会の趣旨についてはもちろん、分科会運営や会場へのアクセス面でも有効だった。

その他

- 各県とも2年間の調査研究期間を設けて提案資料をまとめている。全国連合小学校長会の研究の動向に注視しながら、東北連合小学校長会としての今後の研究の進め方を模索していきたい。
- 研修内容の充実に加えて、大会運営に対してもたくさんの労いの言葉が寄せられた。

平成29年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等
【東海・北陸地区】

研究大会開催日：平成29年10月5日（木）6日（金） 名古屋市

大会主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を
目指す小学校教育の推進

大会副主題 生きる力の確かな育成のための方策と それを実現する
教職員のはたらきへの支援型リーダーシップの在り方

成果

- 大会のスリム化を実現した。1日目の午後から全体会、記念講演、2日目の午前中に分科会という日程で実施することができた。また、1日目に全体会を実施することによって、大会の趣旨説明のプレゼンテーションを研究部長が行うことができ、参加者が「支援型リーダーシップ」という本大会の中心課題について共通意識をもって2日目の分科会に参加することができた。
- 分科会は、14分科会、216グループで研究協議を行った。半日日程での分科会を充実させるために、初めに各県の発表を3本まとめて行った上で70分間のグループ協議をもった。一つのグループを6人編成にしたことによって、全参加者がグループ協議で発言する時間を確保することができた。グループ協議の進め方について、座長に共通理解を図っており、リーダーシップの視点と支援型リーダーシップに関連付けながら、協議を深めることができた。
- 大会趣旨と重点である「支援型リーダーシップの在り方」について、各県へ周知し実践研究を深められるよう、1年前に大会の手引きを発行した。理事研修会でも早い段階から趣旨説明を行い、各県での実践研究を深めていただいた。大会趣旨が参加者に周知され、分科会での提案発表、グループ協議の視点が絞られて協議を深めることができた。
- 「世界をリードする新製品を開発するための『人づくり』と『場づくり』」についてアイシン・エイ・ダブリュ（株）取締役社長、尾崎和久氏による記念講演では、愛知大会の目指す「人づくり、夢づくり」につながる貴重な話を聞くことができ、支援型リーダーシップの在り方についての認識を深めることができた。

課題

- 分科会では、2つのリーダーシップの視点で3本の提案発表を行った。グループ協議の時間確保や協議内容のさらなる深まりを考え、2本の提案発表にしたかった。
- 運営面では、全体会を1日目行ったため、分科会の準備が全体会終了後になった。発表者や役員、係が1日目の日程終了後に分科会会場に移動して準備しなければならず、負担をかけることになった。

運営上の工夫

- 参加者の移動負担を軽減するため、全体会場、分科会場、宿泊ホテルの場所をできる限りコンパクトになるように努めた。全14分科会の会場も一つの施設にまとめて実施した。
- 受付を円滑にするために領収書の提示と名前の申告で済ませた。
- 2日目にお茶（ペットボトル）とせんべいを茶菓子として用意した。他県からの参加者に喜んでいただけた。
- 2日目の分科会場では、エレベーターの混雑を考え、下層階用のエレベーターと階段利用についても案内した。

その他
特になし

平成29年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【中国地区】

研究大会開催日：平成29年11月2日（金） 岡山市

大会主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成
を目指す小学校教育の推進

大会副主題 夢や知を育み、共に未来を拓く子どもの育成に向けた学
校経営の推進

成果

- 研究原稿をいただき、発表者と本県の研究部が事前に意見交換をすることで、当日の発表がより研究主題に焦点化したものとなった。
- また、各分科会では、研究の趣旨・研究の視点・研究協議の柱を明示したレジュメを用意し、各研究分野における校長の責務と指導性・役割について研究協議・情報交換を深めることができた。
- 1日開催のため、2日開催に比べ参加者及び運営側共に大幅に負担が軽減された。

課題

- 分科会場が分散したので大きな混乱はなかったが、移動や昼食の手配に十分な準備と調整が必要である。
- 午後の分科会后、会場ごとの閉会となったため、各分科会の研究協議のまとめを聞くことができない。

運営上の工夫

- 中国地区初の1日開催であったが、2日開催同様の充実度はあった。政令市は、旅費の支給規程が大変厳しくなっており（広島市、岡山市は、開催場所によっては、2日開催だとしても日帰り×2）、1日開催が現実的である。
- 全体会場では、分科会ごとの座席指定により、分科会会場への移動がスムーズに行えた。昼食弁当にも名前を添付し、過不足がないように工夫されていた。

その他

- 分科会会場は、移動時間短縮のため歩いて10分以内（1カ所は15分程度）の場所を確保したが、天気が心配であった。当日は、快晴で「晴れの国岡山」をアピールできた。